

製品名 : BG-10  
整理番号 : 27011930-6  
作成日 : 2002年6月10日  
改訂日 : 2023年7月28日(第6版)  
ページ : 1/7



## 安全データシート

### 1. 化学品(製品)及び会社情報

化学品(製品)の名称	BG-10
製品コード	27011930
整理番号-改訂番号	27011930-6
供給者の会社名称	カナダ株式会社
住所	東京都中央区日本橋本町 1-4-12
担当部門	品質コンプライアンス室
電話番号	03-5200-1347 (受付時間: 月曜日~金曜日 9:00-17:30)
メールアドレス	<a href="mailto:msds@kaneda.co.jp">msds@kaneda.co.jp</a>
推奨用途	食品加工機械用潤滑油

### 2. 危険有害性の要約

#### 化学品(製品)の GHS 分類

化学的危険性	引火性液体	区分に該当しない
	自然発火性液体	区分に該当しない
健康有害性	急性毒性	区分に該当しない

#### GHS ラベル要素

絵表示	なし
注意喚起語	なし
危険有害性情報	なし

### 3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物
化学名又は一般名	石油系炭化水素及び添加剤
化学物質を特定できる一般的な番号	[CAS 番号] 営業秘密であり非公開
成分及び濃度又は濃度範囲	営業秘密であり非公開
官報公示整理番号	[化審法] 営業秘密であり非公開 [安衛法] 営業秘密であり非公開

### 4. 応急措置

吸入した場合	新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
--------	---------------------------------

製品名 : BG-10  
整理番号 : 27011930-6  
作成日 : 2002年6月10日  
改訂日 : 2023年7月28日(第6版)  
ページ : 2/7



	身体を毛布などで覆い、保温して安静に保ち、直ちに医師の手当てを受けること。呼吸が止まっている場合及び呼吸が弱い場合は、衣類を緩め、呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行うこと。
<b>皮膚に付着した場合</b>	直ちに汚染された衣服を脱ぎ、皮膚を大量の水と石鹼で洗うこと。汚染された衣服を再使用する場合には洗濯すること。
<b>眼に入った場合</b>	清浄な水で数分間注意深く洗浄すること。コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。医師の手当てを受けること。
<b>飲み込んだ場合</b>	無理に吐かせないで、直ちに医師の手当てを受けること。口の中が汚染されている場合には、水で十分にすすぐこと。
<b>急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状</b>	誤飲した場合、嘔吐や下痢の恐れがある。嘔吐中に飲み込んだ本品が肺に吸入されると、化学性肺炎を起こし致命的となることがある。眼に入ると炎症を起こすことがある。皮膚に触れると炎症を起こすことがある。ミストを吸入すると気分が悪くなることがある。
<b>応急措置をする者の保護に必要な注意事項</b>	ミストが発生している場合などでは、必要に応じて適切な保護具を着用すること。

## 5. 火災時の措置

<b>適切な消火剤</b>	霧状の強化液、泡、粉末又は炭酸ガス消火剤。
<b>使ってはならない消火剤</b>	棒状放水。
<b>火災時の特有の危険有害性</b>	高温の金属表面等に接触したり、燃料管から漏洩した場合、発生したミストによって燃焼や爆発が起きる可能性がある。燃焼の際は、一酸化炭素等が生成される。
<b>特有の消火方法</b>	周囲の設備等に散水して冷却すること。火元への燃焼源を絶つこと。火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止すること。
<b>消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置</b>	消火作業の際は風上から行い必ず保護具・消防服を着用すること。皮膚への接触が想定される場合は不浸透性の保護具及び手袋を着用すること。

## 6. 漏出時の措置

<b>人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置</b>	皮膚に触れたり、眼に入る可能性がある場合は保護具を着用すること。ミストが発生する場合、呼吸器具等を使用してミストを吸入しないこと。火災が発生する恐れがある場合には消火用器材を準備し、作業の際には消火用保護具を着用すること。
<b>環境に対する注意事項</b>	土壌、下水道、河川等に流出し二次災害や環境汚染を起こさないよう注意し、可能な限り回収すること。海上の場合、オイルフェンスを展開して拡散を防止し、吸着マット等で吸い取ること。
<b>封じ込め及び浄化の方法及び機材</b>	速やかに全ての着火源を取り除き、危険でなければ漏洩箇所の漏

れを止めること。漏洩した場所の周辺にはロープを張り、人の立入りを禁止すること。

少量の場合：土、砂、おがくず、ウエス等に吸収させ、空容器に回収すること。

大量の場合：盛り土等で困って流出を止め安全な場所に導いた後、できるだけ容器等に回収すること。

海上の場合：オイルフェンスを展開して拡散を防止し、吸着マット等で吸い取ること。

こぼれた場合：液の拡散を防止し、流出物をすくい取るか、又は適当な吸収材を使用して回収すること。止むを得ない場合は薬剤を使用すること。薬剤を用いる場合には、運輸省令で定める技術上の基準に適合したものでなければならない。

漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報すること。付近の着火源となるものを速やかに取り除き、消火剤を準備すること。

## 二次災害の防止策

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

消防法や市町村条例で定められた基準に従い、製造所や貯蔵所にて取り扱うこと。作業着や靴等も導電性のものを使用し、電気設備類は防爆対策を行うこと。熱、火花、炎、高温体との接触を避けるとともに、みだりにミストを発散させないこと。禁煙。危険物が残存している機械設備などを修理する場合は、安全な場所において危険物を完全に除去してから行うこと。眼や皮膚に触れたり、ミストを吸入する恐れがある場合は、適切な保護具を着用すること。

#### 安全取扱注意事項

ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないよう注意すること。空容器に圧力をかけないこと。圧力をかけると破裂することがある。

#### 接触回避

炎、火花、または高温体との接触を避けること。

#### 衛生対策

室内で取り扱いを行う場合は十分な換気を行うこと。換気装置をつける場合は防爆タイプを用いること。「8. 暴露防止及び保護措置」を参照すること。

### 保管

#### 安全な保管条件

直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。容器を密閉し、保管場所に施錠すること。危険物の表示をして保管すること。熱、スパーク、火炎並びに静電気蓄積を避けること。保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地すること。ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触並びに同一場所での保管を避けること。

製品名 : BG-10  
整理番号 : 27011930-6  
作成日 : 2002年6月10日  
改訂日 : 2023年7月28日(第6版)  
ページ : 4/7



### 安全な容器包装材料

容器に圧力をかけないこと。圧力をかけると破裂することがある。別の容器に入れ替えないこと。樹脂容器は種類により、膨潤又は溶解する場合がある。

※本製品は消防法における危険物 第4類 第4石油類に該当する。消防法の基準に従うこと。

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 許容濃度等

日本産業衛生学会

3 mg/m<sup>3</sup> (鉛油ミスト)<sup>1)</sup>

ACGIH(米国産業衛生専門家会議)

時間荷重平均 TWA 5 mg/m<sup>3</sup> (鉛油ミスト)<sup>2)</sup>

### 設備対策

ミスト又はヒュームが発生する場合には、発生源の密閉化又は排気装置を設けること。取扱場所近辺に洗眼及び身体洗浄のための設備を設けること。

### 保護具

#### 呼吸用保護具

通常必要がないが、ミストが発生する場合等、必要に応じて有機ガス用保護マスクを着用すること。

#### 手の保護具

長期又は繰り返し接触する場合には耐油性のものを着用すること。

#### 眼、顔面の保護具

飛沫が飛ぶ場合には化学薬品用保護眼鏡を着用すること。

#### 皮膚及び身体の保護具

長時間にわたり取扱う場合又は付着する場合には耐油性の長袖作業服等を着用すること。付着した衣服は脱ぎ、完全に清浄にしてから再使用すること。

## 9. 物理的及び化学的性質

### 物理状態

液体

### 色

ほぼ無色透明

### 臭い

ほぼ無臭

### 融点／凝固点

データなし

### 沸点又は初留点及び沸騰範囲

データなし

### 可燃性

可燃性

### 爆発下限界及び

上限:7% (推定値) 下限:0.9% (測定値)

### 爆発上限界／可燃限界

### 引火点

230°C以上 (COC)

### 自然発火点

データなし

### 分解温度

データなし

### pH

データなし

### 動粘性率

95.00 mm<sup>2</sup>/s(37.8°C)

製品名 : BG-10  
整理番号 : 27011930-6  
作成日 : 2002年6月10日  
改訂日 : 2023年7月28日(第6版)  
ページ : 5/7



溶解度	水に不溶 (20°C)
n-オクタノール/水分配係数	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び/又は相対密度	0.860~0.880 g/cm <sup>3</sup> (15°C)
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし
化学的安定性	常温で暗所に貯蔵・保管された場合、安定である。
危険有害反応可能性	強酸化剤との接触を避けること。
避けるべき条件	加熱、混触危険物質との接触。
混触危険物質	ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化剤。
危険有害な分解生成物	情報なし

## 11. 有害性情報

急性毒性	
経口	構成成分の急性毒性(経口)値に基づく、本製品の急性毒性(経口)推定値は LD <sub>50</sub> >5 g/kg であり、区分に該当しない。
経皮	情報なし
吸入	情報なし
皮膚腐食性/刺激性	情報なし
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	情報なし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	情報なし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	情報なし
誤えん有害性	情報なし

## 12. 環境影響情報

生態毒性	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし

製品名 : BG-10  
整理番号 : 27011930-6  
作成日 : 2002年6月10日  
改訂日 : 2023年7月28日(第6版)  
ページ : 6/7



土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし

### 13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報  
事業者は知事等の許可を受けた処理業者もしくは地方自治体が行っている場合には、そこに委託して処理すること。投棄禁止。

### 14. 輸送上の注意

国連番号	非該当
国内規制がある場合の規制情報	
陸上	消防法 危険物 第4類 第4石油類
海上	非該当
航空	非該当

### 15. 適用法令

労働安全衛生法	該当しない
毒物及び劇物取締法	該当しない
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	該当しない
消防法	危険物 第4類 第4石油類 危険等級Ⅲ
水質汚濁防止法	油分排出規制(5 mg/L 許容濃度) ノルマルヘキサン抽出分として検出される
海洋汚染防止法	油分排出規制(原則禁止)
下水道法	鉱油類排出規制
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物規制(拡散、排出の禁止)

### 16. その他の情報

#### 引用文献及び参考文献

- ・JIS Z 7252 : 2019 / JIS Z 7253 : 2019 に基づいて作成
- ・本製品原料の安全データシート
- 1) 日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告(OELs)(2022年版)
- 2) Thresholds limit values for chemical substances and physical agents and biological exposure indices. ACGIH (2005)

製品名 : BG-10  
整理番号 : 27011930-6  
作成日 : 2002年6月10日  
改訂日 : 2023年7月28日(第6版)  
ページ : 7/7

---



安全データシートの記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しており、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有物・物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また注意事項は、通常的な取扱いを対象としたものですので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上ご利用下さい。記載内容は情報の提供であって、保証するものではありません。